

種苗をめぐる情勢

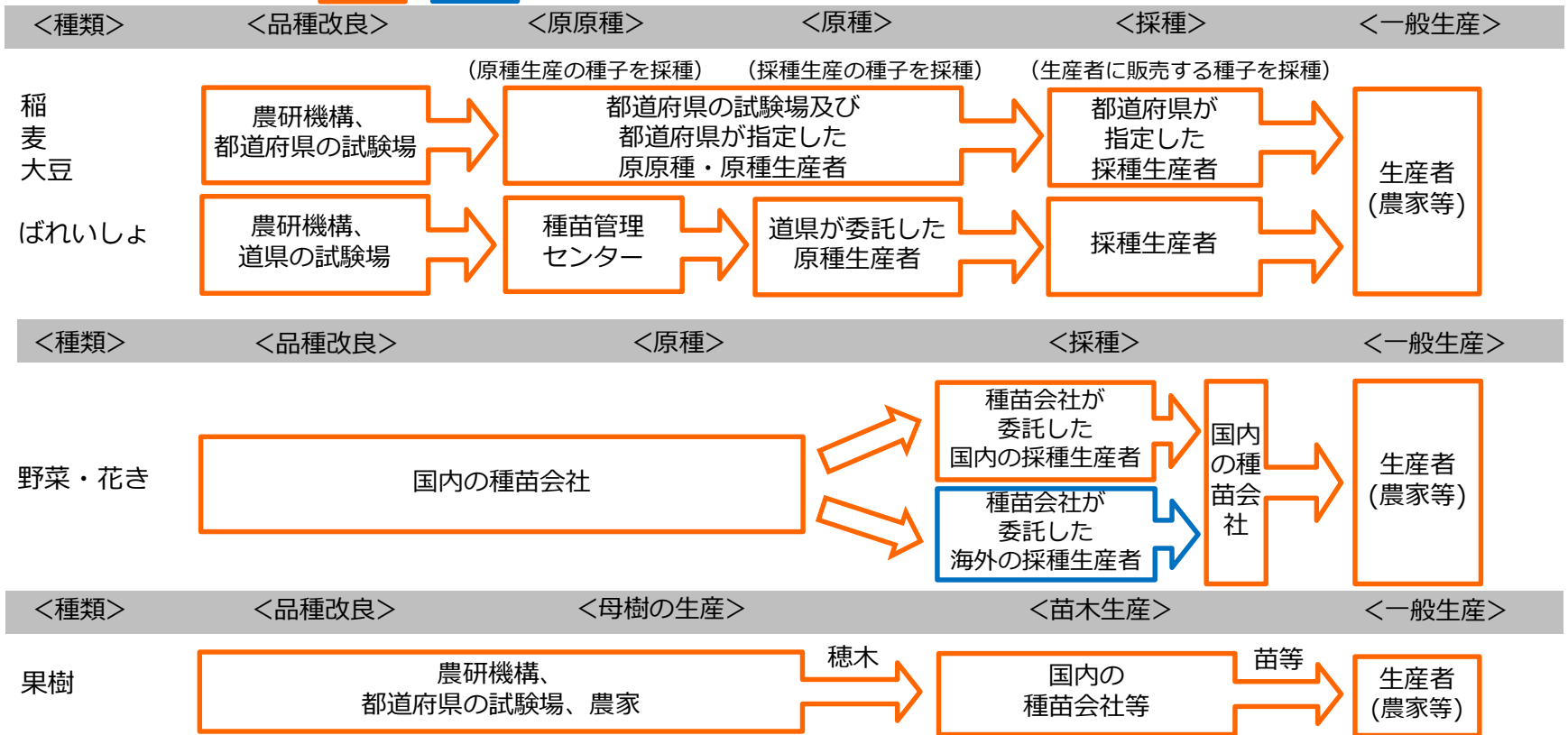
令和3年4月

農林水産省食料産業局知的財産課

我が国における種苗の供給体制

- 稲、麦、大豆、ばれいしょ等の主要農作物の種子は、農研機構や都道府県の試験場が開発した優良な品種の原原種を元にして国内の種苗生産地で段階的に増殖され、供給されている。
- 野菜・花きの種子は、国内の種苗会社が開発した優良な品種を用いて国内及び海外の生産地で増殖され、供給されている。
- 果樹の苗は、農研機構や都道府県の試験場等が開発した優良な品種の母樹の穂木（枝）を国内で他の品種（台木）に接いで増殖し苗木に仕立てられ、供給されている。

【種子供給の代表的な例】 国内 → 海外



我が国における種苗の需給動向

- 我が国の種苗産業の市場規模は、2,600億円程度と推計される。
- 穀類、果樹の種苗は、ほぼ全量国内で生産されている。
- 野菜の種子の多くが、交雑品種※（F1品種）であり、①多種多様な品目の供給が必要となる野菜の種子を**安定的に生産**する必要性や、②一般に、作物は**原産地に似た気候**で育てた方が**良質な種子**ができること等の理由により、約9割が海外で生産されている。

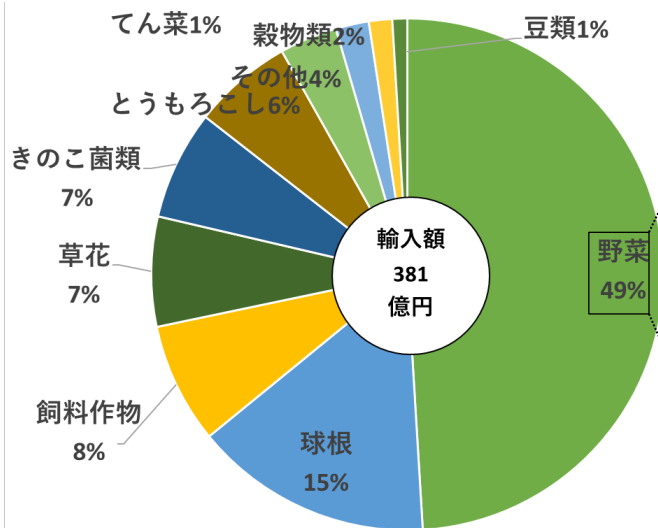
※優良な親品種の雄株と雌株を交配し、作り出したより優良な品種のこと

我が国の種苗販売市場規模

品目	販売額（億円）
穀物	311.8
果樹	266.5
野菜	1,689.8
花き	300.3
合計	2,568.4

（資料：JATAFF「令和2年度種苗産業動向調査」）

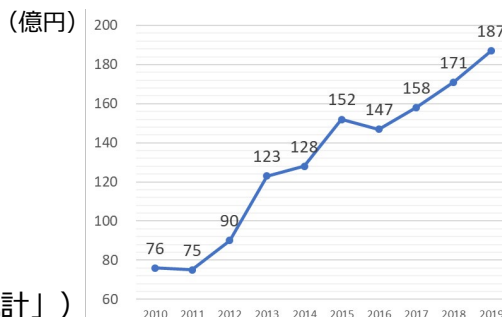
我が国における種苗の輸入額（2019年）



野菜種子の輸入元国

国名	輸入額（百万円）	数量（トン）
チリ	5,609	578
アメリカ合衆国	3,310	1,751
中華人民共和国	1,813	530
イタリア	1,620	651
南アフリカ共和国	1,421	152
オーストラリア	688	232
タイ	669	53
デンマーク	536	673
ニュージーランド	497	389
インド	448	63
その他	2,080	280
合計	18,689	5,352

我が国の野菜種子の輸入額の推移



（資料：財務省「貿易統計」）

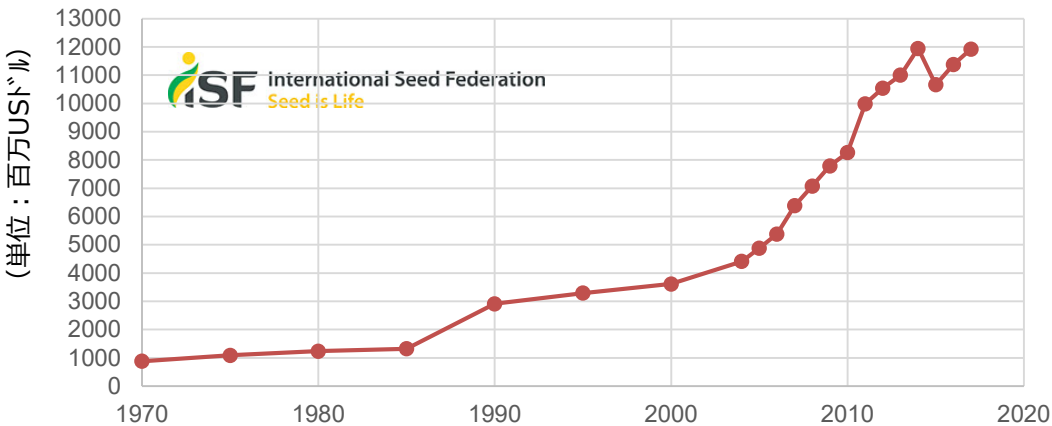
（参考）野菜種子の輸出先国（2019年）

国名	輸出額（百万円）	数量（トン）
中華人民共和国	1,930	286
香港	1,477	32
大韓民国	862	53
ベトナム	443	51
ブラジル	424	24
アメリカ合衆国	390	37
インドネシア	339	24
イラン	271	15
フィリピン	261	41
コロンビア	258	19
その他	1,900	225
合計	8,556	807

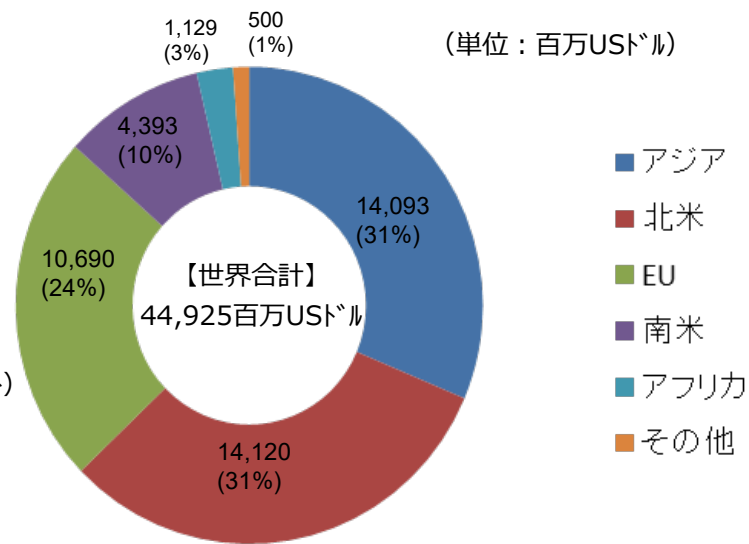
世界の種苗貿易と産業規模

- 世界の種苗の貿易額は、80年代後半以降、急速に拡大し、2017年（平成29年）においては約119億USD（約1兆2,900億円）となっている。
- 世界の種苗の市場規模は、おおむね450億ドル程度と見積られており、国別にみると、アメリカ、中国等が上位を占めている。我が国は、野菜種子の輸出において、上位に入る規模を有しているところ。

(1) 世界の種苗の貿易額の推移



(2) 世界の種苗市場規模 (2012年)



(3) 国別種子産業の規模 (2012年)

単位：百万USD

国名	国内流通額	輸出額		計
			うち野菜	
①アメリカ	12,000	1,531	529	13,531
②中国	9,950	251	158	10,201
③フランス	2,800	1,804	349	4,604
④ブラジル	2,625	165	14	2,790
⑤カナダ	2,120	323	6	2,443
⑥オランダ	590	1,583	1,255	2,173
⑦インド	2,000	67	36	2,067
⑧ドイツ	1,170	727	58	1,897
⑨日本	1,350	145	91	1,495
⑩アルゼンチン	990	150	15	1,140
⑪イタリア	767	315	116	1,082
⑫トルコ	750	55	12	805
⑬スペイン	660	145	51	805
その他	7,153	3,282	757	10,435
合計	44,925	10,543	3,447	

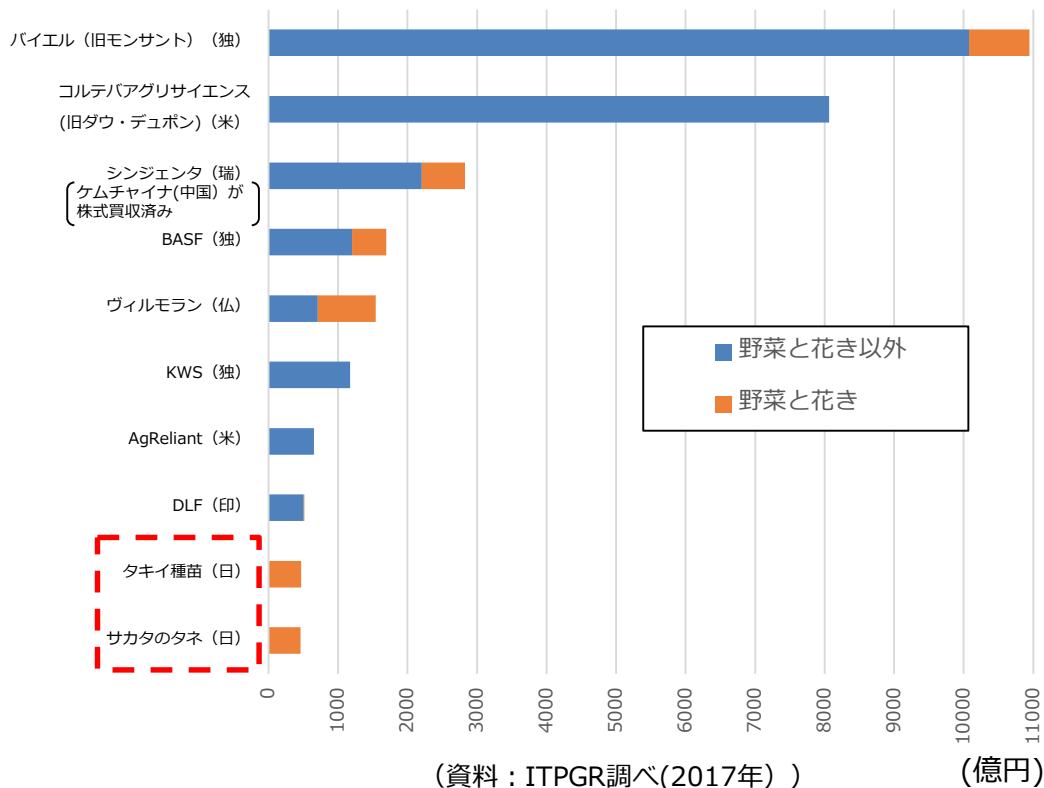
(資料：国際種子連盟 (ISF) ウェブサイト)

(資料：国際種子連盟 (ISF) ウェブサイト)

世界の主要な種苗会社の概要

- 世界の主要な種苗会社の種苗売上高をみると、バイエル（旧モンサント）（独）、コルテバアグリサイエンス（米）、シンジェンタ（瑞）等が上位を占めており、我が国からは、サカタのタネ及びタキイ種苗が世界上位10社に入っている。
- 両社は、多くの国に展開しているグローバル企業で野菜種子においては上位を占めており、特に、サカタのタネはブロッコリーで高い世界シェア、タキイ種苗は東南アジアのキャベツで高いシェアを有している。
- 国内市場の拡大が見込めない一方、種苗の国際競争の激化が見込まれており、我が国種苗会社のさらなる輸出拡大や海外展開が重要。

世界の主要な種苗会社の種苗売上高（2017年）



野菜種子及び花き種子の主要会社のシェア

会社名	販売実績 (億円)	シェア (%)
バイエル (モンサント)	922	17.0
ヴィルモラン	886	16.3
シンジェンタ	661	12.2
BASF	522	9.6
タキイ種苗	503	9.3
サカタのタネ	491	9.0
DLF	11	0.2
その他	1,784	32.8

(資料：ITPGR調べ(2017年))

我が国の種苗会社の海外展開事例

サカタのタネ

- ブロッコリーの約65%、トルコギキョウの約75%、パンジーの約30%の世界シェア

タキイ種苗

- キャベツのインドネシアでのシェア約70%、タイでのシェア約50~60%
- 観賞用ヒマワリ及びハボタンの世界シェア約70~80%